

沈黙にいらさぬ

沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

(93)

軍隊は自己保身のため、住
民を直接殺害したり、死に
追い込んだり(間接殺害)
したというのが沖繩戦の教
訓だ。それを教科書記述か
ら消し去る動きが顕著にな
ってきたのである。

危機への警鐘

2002年3月末、沖繩
戦を「軍民一体の戦闘」だ
ったという教科書記述をめ
つて、危機的沖繩内外の状
況を「軍民一体の戦闘」

歴史修正主義の台頭①

「まぼろし」化される沖
繩戦―沖繩戦体験の二重構
造―というタイトルで、02
年6月18日から6回にわた
って、危機的沖繩内外の状
況を「軍民一体の戦闘」

「まぼろし」化される沖
繩戦―沖繩戦体験の二重構
造―というタイトルで、02
年6月18日から6回にわた
って、危機的沖繩内外の状
況を「軍民一体の戦闘」

「集団自決」に固執

本連載第86回(7月20日)
付で、平和祈念資料館の
設立理念で「自ら命を断ち」
一切の教科書・教材から削
除することを求める決議」
を行った。沖繩の地から日
本全国へ、そのキャンペーン
を大々的に行うようであ
る。彼らの真の狙いは、集
団自決という用語をとおし
て、沖繩戦は「軍民一体の
戦闘」だったという言説を
使わざるを得ない目的は違
いだが、その言説は「自ら
命を断ち」たという表現
と分析していた。

「歴史修正主義」が、つ
いに沖繩戦の調査を現地
で実施したので、新聞社は即
日付でも紹介し、「裁判
連載を企画した」とした。
その第1回で私は、その
調査をふまえた歴史修正主
義の自由主義史観研究会が
六月四日東京で緊急集会
「日本軍による沖繩戦集
団自決強要事件」の虚構を
一切の教科書・教材から削
除することを求める決議」
を行った。沖繩の地から日
本全国へ、そのキャンペーン
を大々的に行うようであ
る。彼らの真の狙いは、集
団自決という用語をとおし
て、沖繩戦は「軍民一体の
戦闘」だったという言説を
使わざるを得ない目的は違
いだが、その言説は「自ら
命を断ち」たという表現
と分析していた。

その裁判記録は本連載の
第42回(2019年6月26
日付)でも紹介し、「裁判
連載を企画した」とした。
その第1回で私は、その
調査をふまえた歴史修正主
義の自由主義史観研究会が
六月四日東京で緊急集会
「日本軍による沖繩戦集
団自決強要事件」の虚構を
一切の教科書・教材から削
除することを求める決議」
を行った。沖繩の地から日
本全国へ、そのキャンペーン
を大々的に行うようであ
る。彼らの真の狙いは、集
団自決という用語をとおし
て、沖繩戦は「軍民一体の
戦闘」だったという言説を
使わざるを得ない目的は違
いだが、その言説は「自ら
命を断ち」たという表現
と分析していた。

文化

本連載では前回、戦後日
本が「軍事による平和(国
防族・軍拡論者)へと向か
う転換点になったのは19
99年だったと記憶される
であろうことを記した。ま
さに、連戦中の平和祈念資
料館問題が発生した年でも
あり、それは歴史の必然だ
ったということになるの
か。資料展示改ざん事件で
「非軍事(九条・非戦)に
よる平和」の強固な意志を
国民が示したのは連戦でみ
てきた通りである。しかし、
「軍事による平和」の動き
は玉石流のような勢いで沖
繩に迫ってきた。

本連載では前回、戦後日
本が「軍事による平和(国
防族・軍拡論者)へと向か
う転換点になったのは19
99年だったと記憶される
であろうことを記した。ま
さに、連戦中の平和祈念資
料館問題が発生した年でも
あり、それは歴史の必然だ
ったということになるの
か。資料展示改ざん事件で
「非軍事(九条・非戦)に
よる平和」の強固な意志を
国民が示したのは連戦でみ
てきた通りである。しかし、
「軍事による平和」の動き
は玉石流のような勢いで沖
繩に迫ってきた。

沖繩戦改ざん 顕著に 教科書で「軍民一体」記述も

況について警鐘を鳴らし
をめぐって」というタイト
ルの連載を開始した。

現で決着した。それで、「日
本軍の強制による集団自決」
が、資料館展示の地の文で
使われることになった経緯
を述べた。

第三次家永教科書裁判の
沖繩戦に関する部分につい
て、第一審で国側は、曾野
綾子氏を証言台に立たせ
た。曾野綾子氏はその昔あ
る沖繩の背景―沖繩・波嘉
島の集団自決―を文芸春
秋社を得意書として提出
した。しかし、家永判裁を
覆すべく、彼らの沖繩戦
の改ざんへの熱意にいか
に立ち向かうかが課題にな
った。

次回12月中旬掲載予
定

国の意図浮き彫り

「集団自決」論争にも決着



第三次家永教科書裁判の沖繩戦に関する部分についての連戦「家永教科書裁判の記録『裁かれた沖繩戦を讀んで』」(1990年1月17日付琉球新報朝刊の文化面より)

私に懸念は的中した。03
年6月、国内戦場(外国か
ら武力攻撃を受けた)を想
定した「有事法制」が制定
され、日本国民が「有事」
に備え、「軍民一体化」し
て、「戦意」を形成するこ
とが急務だと国防族は考え
たようである。

自衛隊制服トップだった
左衛門拓也(元防衛省副
官)は、「日本国防軍を創
設する」

戦研究の間で見解が分か
れている。戦前の軍民化教
育や日本軍による「死」の
命はなかつたといふことを
証明するために、ヤマトの

野氏の証言や意見書は、先
立向かうかが課題にな
った。

次回12月中旬掲載予
定